

評価項目の設定

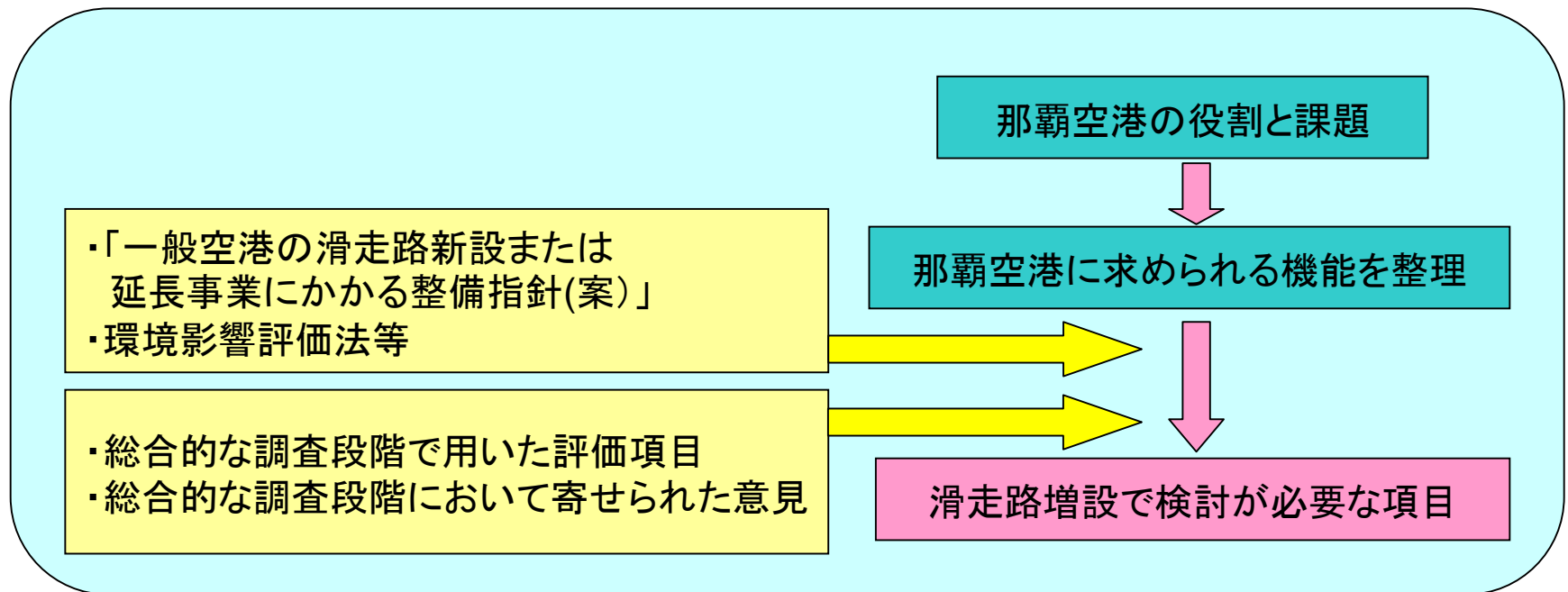
平成20年 9月22日
内閣府 沖縄総合事務局

1 評価の目的

○幅広い選択肢から滑走路の概ねの位置、方位等の基本的な諸元に関する一の候補地を選定するために、那覇空港の特徴を踏まえた、評価項目を設定し、総合的な比較評価を行うことを目的とする。

2 評価項目の整理手順

○空港整備は、地域間の航空需要を支える拠点としての機能を確保するだけでなく、空港は背後地域の社会・経済、環境に影響を与えることから、整備にあたっては様々な観点から検討を行う必要がある。検討を行う際の評価項目については、下記手順により整理するものとする。



○評価項目の設定に当たっては、下記①～③を考慮し検討を行うものとする。

- ①事業の目的の達成度合いを評価できること。
- ②社会面、経済面、環境面等の様々な観点から評価できること。
- ③住民・関係者等の関心事も含め、地域特性や事業特性に配慮していること。

2 評価項目の設定

那覇空港の役割と課題

那覇空港の特徴

○24時間運用空港

・我が国では羽田空港や関西国際空港などと並び数少ない24時間運用の空港である。

○国内ネットワーク（地域における拠点的な空港）

・国内ネットワーク充実のため重要である。（航空分科会答申）
・航空ネットワークにおいて重要な役割を果し、航空輸送上重要な空港とされている。（地震に強い空港のあり方）

○地理的特性

・近年、経済成長の著しい東アジアに隣接した地理的優位性を活かし、「アジア・ゲートウェイ構想」の展開により、日本と東アジアの架け橋となる可能性を秘めている。

○背後圏人口の増加

・沖縄県は他都道府県に比べ人口増加期間が長いこと、長期的な需要の増加が期待される。

那覇空港の役割

○住民生活における役割

・那覇空港は、観光、ビジネス、帰省など様々な目的で沖縄県民に利用されている。（離島県民の生活圏の拡大）
・24時間体制で緊急患者輸送の実施を行っている。

○地域経済における役割

・入域観光客の98%が空路で来訪する沖縄にとって、県経済のリーディング産業である「観光」を支える社会基盤である。
・失業率の高い沖縄において、那覇空港自体が大きな産業として雇用を創出している。

○地域社会における役割

・県外地域との間で工業品や農水産物を輸送する際に航空機が利用される率が全国平均より高い。
・県内12空港を結ぶハブ空港として、離島地域の生活格差是正に貢献している。

那覇空港の課題

○需要への対応

・現在でも17万人が沖縄訪問を取りやめている。
・2010～2015年の夏季を中心に現滑走路では需要に対応できない。

○滑走路が1本であるがための弊害

・24時間空港のため、滑走路が1本しかないため、維持管理に制約がある。
・沖縄は、離島県であるため、事故・災害により滑走路閉鎖になった場合、代替高速輸送手段がない。
・H12.9に座礁事故が発生し、那覇空港に大きな影響を与えた。

○重要港湾那覇港に隣接

・県内物流を支える那覇港の港口が隣接していることから、大型貨物船、旅客船が航行する場合、制限表面への制約が生じる。

那覇空港に求められる機能

●交通政策審議会航空分科会答申

「那覇空港は、将来的に需要が逼迫することが予想される」
地域における拠点的な空港のあり方

- ①国内航空ネットワークの充実
- ②東アジア等との直接交流を促進

⇒内外の中核的な交流拠点として機能していくことが望まれる

●沖縄振興計画

- ①アジア太平洋地域における国際交流・協力拠点
- ②アジア太平洋地域における海洋リゾートのゲートウェイ
- ③県民生活の高質化・安定化を支える交流連携拠点
- ④企業の物流効率化を支える交流連携拠点

●アジア・ゲートウェイ構想

①国際物流構想

東アジアに隣接していること、24時間空港である優位性から、2009年度末から年間貨物取扱量40万トンの国際物流構想が始まる。

②入込客の誘致

背後人口が多く、経済発展の著しい東アジアに隣接している地理的特性から、外国観光客増加が期待される。

求められる空港の機能

○離島県の公共交通

・適切な空港能力を確保することで、離島住民の利便性を確保し、地域社会の発展に寄与する必要がある

○県経済発展への寄与

・増加する観光客へ対応し、県経済の発展に寄与する必要がある
・県産の農林水産物、工業製品の輸送拡大に寄与する必要がある

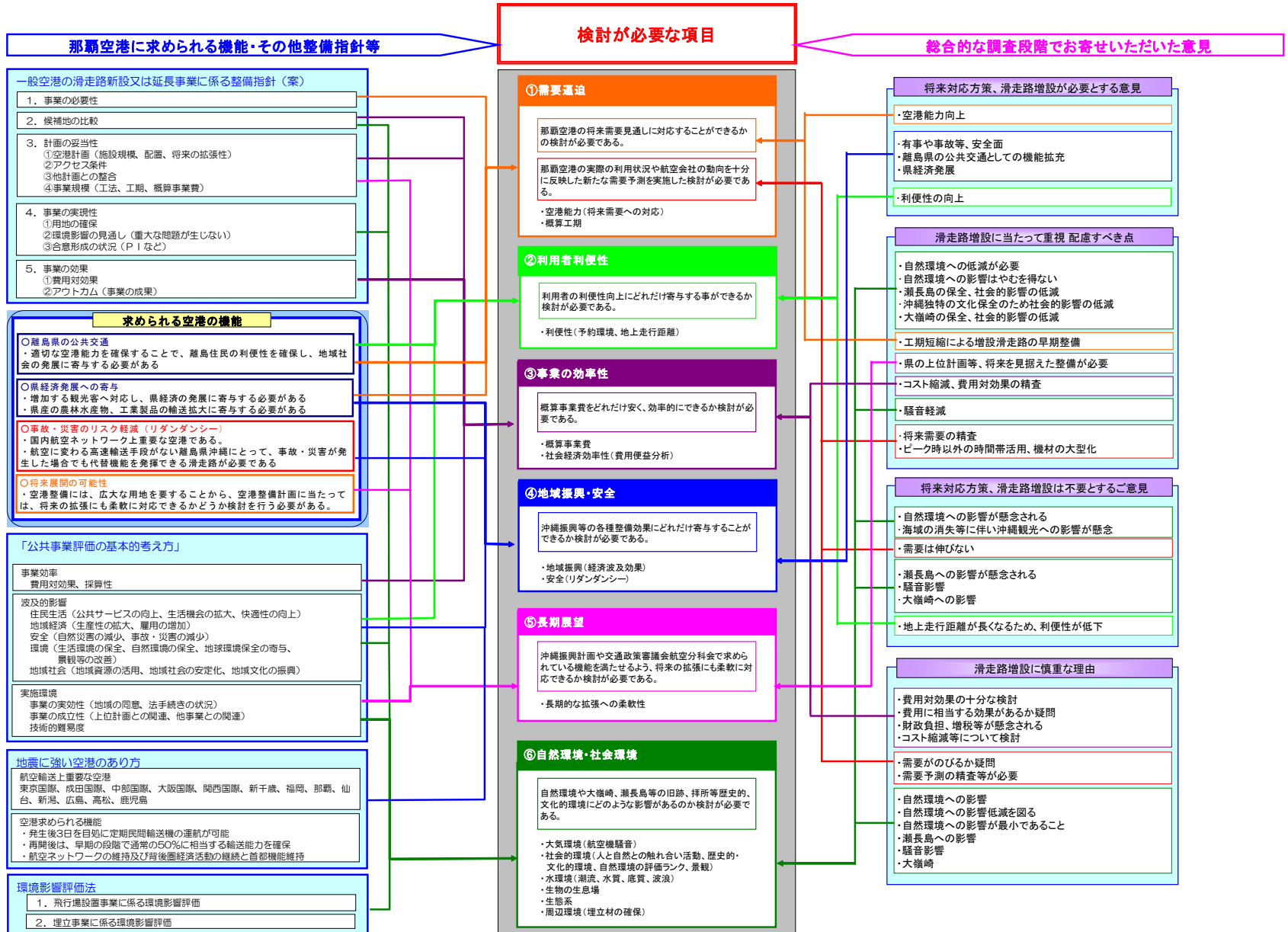
○事故・災害のリスク軽減（リダンダンシー）

・国内航空ネットワーク上重要な空港である。
・航空に変わる高速輸送手段がない離島県沖縄にとって、事故・災害が発生した場合でも代替機能を発揮できる滑走路が必要である

○将来展開の可能性

・空港整備には、広大な用地を要することから、空港整備計画に当たっては、将来の拡張にも柔軟に対応できるかどうか検討を行う必要がある。

3 評価項目の設定



検討が必要な項目

総合的な調査段階でお寄せいただいた意見

那覇空港に求められる機能・その他整備指針等

- ### 一般空港の滑走路新設又は延長事業に係る整備指針（案）
1. 事業の必要性
 2. 候補地の比較
 3. 計画の妥当性
 - ①空港計画（施設規模、配置、将来の拡張性）
 - ②アクセス条件
 - ③他計画との整合
 - ④事業規模（工法、工期、概算事業費）
 4. 事業の実現性
 - ①用地の確保
 - ②環境影響の見通し（重大な問題が生じない）
 - ③合意形成の状況（P1など）
 5. 事業の効果
 - ①費用対効果
 - ②アウトカム（事業の成果）

- ### 求められる空港の機能
- 離島県の公共交通
 - ・適切な空港能力を確保することで、離島住民の利便性を確保し、地域社会の発展に寄与する必要がある
 - 県経済発展への寄与
 - ・増加する観光客へ対応し、県経済の発展に寄与する必要がある
 - ・県産の農林水産物、工業製品の輸送拡大に寄与する必要がある
 - 事故・災害のリスク軽減（リダンダンシー）
 - ・国内航空ネットワーク上重要な空港である。
 - ・航空に変わる高速輸送手段がない離島県沖縄にとって、事故・災害が発生した場合でも代替機能を発揮できる滑走路が必要である
 - 将来展開の可能性
 - ・空港整備には、広大な用地を要することから、空港整備計画に当たっては、将来の拡張にも柔軟に対応できるかどうかを検討を行う必要がある。

- ### 「公共事業評価の基本的考え方」
- 事業効率
 - 費用対効果、採算性
 - 波及的影響
 - 住民生活（公共サービスの向上、生活機会の拡大、快適性の向上）
 - 地域経済（生産性の拡大、雇用の増加）
 - 安全（自然災害の減少、事故・災害の減少）
 - 環境（生活環境の保全、自然環境の保全、地球環境保全の寄与、景観等の改善）
 - 地域社会（地域資源の活用、地域社会の安定化、地域文化の振興）
 - 実施環境
 - 事業の実効性（地域の同意、法手続きの状況）
 - 事業の成立性（上位計画との関連、他事業との関連）
 - 技術的難易度

- ### 地震に強い空港のあり方
- 航空輸送上重要な空港
東京国際、成田国際、中部国際、大阪国際、関西国際、新千歳、福岡、那覇、仙台、新潟、広島、高松、鹿児島
- 空港求められる機能
・発生後3日を自前に定期民間輸送機の運航が可能
・再開後は、早期の段階で通常の50%に相当する輸送能力を確保
・航空ネットワークの維持及び背後圏経済活動の継続と首都機能維持

- ### 環境影響評価法
1. 飛行場設置事業に係る環境影響評価
 2. 埋立事業に係る環境影響評価

- ### ①需要逼迫
- 那覇空港の将来需要見通しに対応することができるかの検討が必要である。
 - 那覇空港の実際の利用状況や航空会社の動向を十分に反映した新たな需要予測を実施した検討が必要である。
 - ・空港能力（将来需要への対応）
 - ・概算工期

- ### ②利用者利便性
- 利用者の利便性向上にどれだけ寄与することができるかの検討が必要である。
 - ・利便性（予約環境、地上走行距離）

- ### ③事業の効率性
- 概算事業費をどれだけ安く、効率的にできるかの検討が必要である。
 - ・概算事業費
 - ・社会経済効率性（費用便益分析）

- ### ④地域振興・安全
- 沖縄振興等の各種整備効果にどれだけ寄与することができるかの検討が必要である。
 - ・地域振興（経済波及効果）
 - ・安全（リダンダンシー）

- ### ⑤長期展望
- 沖縄振興計画や交通政策審議会航空分科会で求められている機能を満たせるよう、将来の拡張にも柔軟に対応できるかの検討が必要である。
 - ・長期的な拡張への柔軟性

- ### ⑥自然環境・社会環境
- 自然環境や大嶺崎、瀬長島等の旧跡、排所等歴史的、文化的環境にどのような影響があるかの検討が必要である。
 - ・大気環境（航空機騒音）
 - ・社会的環境（人と自然との触れ合い活動、歴史的・文化的環境、自然環境の評価ランク、景観）
 - ・水環境（潮流、水質、底質、波浪）
 - ・生物の生息場
 - ・生態系
 - ・周辺環境（埋立材の確保）

- ### 将来対応方策、滑走路増設が必要とする意見
- ・空港能力向上
 - ・有事や事故等、安全面
 - ・離島県の公共交通としての機能拡充
 - ・県経済発展
 - ・利便性の向上

- ### 滑走路増設に当たって重視 配慮すべき点
- ・自然環境への低減が必要
 - ・自然環境への影響はやむを得ない
 - ・瀬長島の保全、社会的影響の低減
 - ・沖縄独特の文化保全のための社会的影響の低減
 - ・大嶺崎の保全、社会的影響の低減
 - ・工期短縮による増設滑走路の早期整備
 - ・県の上位計画等、将来を見据えた整備が必要
 - ・コスト削減、費用対効果の精査
 - ・騒音軽減
 - ・将来需要の精査
 - ・ピーク時以外の時間帯活用、機材の大型化

- ### 将来対応方策、滑走路増設は不要とするご意見
- ・自然環境への影響が懸念される
 - ・海域の消失等に伴い沖縄観光への影響が懸念
 - ・需要は伸びない
 - ・瀬長島への影響が懸念される
 - ・騒音影響
 - ・大嶺崎への影響
 - ・地上走行距離が長くなるため、利便性が低下

- ### 滑走路増設に慎重な理由
- ・費用対効果の十分な検討
 - ・費用に相当する効果があるか疑問
 - ・財政負担、増税等が懸念される
 - ・コスト削減等について検討
 - ・需要がのびるか疑問
 - ・需要予測の精査等が必要
 - ・自然環境への影響
 - ・自然環境への影響低減を図る
 - ・自然環境への影響が最小であること
 - ・瀬長島への影響
 - ・騒音影響
 - ・大嶺崎

3 評価項目の設定

那覇空港における評価項目

評価の視点	評価の内容	評価項目	
① 需給逼迫	那覇空港の将来需要見通しに対応することができるか。	空港能力	将来需要への対応
		概算工期	
② 利用者利便性	利用者の利便性向上にどれだけ寄与することができるか。	利便性	予約環境
			地上走行距離
③ 事業の効率性	概算事業費をどれだけ安く、効率的にできるか。	概算事業費	
		社会経済効率性	費用便益分析
④ 地域振興・安全	沖縄振興等の各種整備効果にどれだけ寄与することができるか。	地域振興	経済波及効果
		安全	リダンダンシー

評価の視点	評価の内容	評価項目	
⑤ 長期展望	沖縄振興計画や交通政策審議会航空分科会で求められている機能を満たせるよう、将来の拡張性の検討が必要である。	長期的な拡張（新たな需要対応、利便性向上）への柔軟性	
		大気環境	航空機騒音
⑥ 自然環境・社会環境	自然環境や大嶺崎・瀬長島等の旧跡、拝所等歴史的・文化的環境にどのような影響があるか。	社会的環境	人と自然との触れ合い活動
			歴史的・文化的環境
			自然環境の評価ランク
		水環境	景観
			潮流
			水質
			底質
		生物の生息場	波浪
			消失面積
			生態系
周辺環境	埋立材の確保		